

**令和6年度「ひろしまユニコーン10」プロジェクト環境整備業務  
公募型プロポーザル選定委員会議事録（議事要旨）**

令和6年度「ひろしまユニコーン10」プロジェクト環境整備業務に係る企画提案公募に対し、民間事業者から提出された提案書等の内容について、広島県商工労働局産業振興施策公募型プロポーザル選定委員会において、次のとおり審査した。

項 目		内 容
1	日 時	令和6年3月27日（水） 15時から16時40分まで
2	場 所	オンライン
3	出席委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広島県 商工労働局 イノベーション環境整備担当部長</li> <li>・広島県 商工労働局 新産業創出担当部長</li> <li>・広島県 商工労働局 イノベーション推進チーム担当課長（イノベーション環境整備）</li> <li>・広島県 商工労働局 イノベーション推進チーム担当課長（地域産業デジタル化推進担当）</li> <li>・公益財団法人ひろしま産業振興機構 常務理事</li> </ul>
4	議 題	令和6年度「ひろしまユニコーン10」プロジェクト環境整備業務の公募型プロポーザル審査
5	担当部署	広島県商工労働局 イノベーション推進チーム スタートアップ企業創出担当
6	開催方法	オンライン
7	議事内容	<p>提出された提案書を基にプレゼンテーションによる審査を行い、最も高い評価値を得たA社（Plug and Play Japan 株式会社）を最優秀提案者として決定した。</p> <p>提案者ごとの主な評価・選定理由  <b>【A社：Plug and Play Japan 株式会社】</b>  <u>&lt;プログラムの運営&gt;</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 類似業務の受託実績が豊富であり、また、運営関係で3チーム編成11人を配置、他に業界別チームも配置するなど、十分な業務遂行能力を有していると高く評価できる。</li> <li>・ プログラムの各フェーズにおいて丁寧かつ工夫された企画提案がなされている。</li> </ul> <p><u>&lt;イベント開催&gt;</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ JETRO 広島や広島大学とのネットワークの活用が期待できる。</li> </ul> <p><u>&lt;ネットワークの構築&gt;</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ パートナー企業数が多く、国内外にネットワークを持ち、幅広いスタートアップ企業との深いつながりがある。</li> </ul> <p><u>&lt;その他&gt;</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他業務との重複が見込まれ、突発対応などにどれだけ本業務にアサインしてもらえるのか、やや不安がある。</li> </ul> <p><u>&lt;総括&gt;</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 提案時点で県内企業を比較的良好に把握されており、県内企業の参加が促進されると思われる。</li> </ul>

また、圧倒的なメンター陣をプールしており、採択企業に寄り添ったメンタリングが可能と思われるとともに、必要に応じてメンターを追加するなど柔軟に対応する姿勢がとても評価できる。

**【B社：フォースタートアップス株式会社】**

<プログラムの運営>

- ・ 県内企業に精通している広島県イノベーション・ハブ施設の運営者を広島地域のエリアコーディネーターに配置しており、県内企業の掘り起こしを期待できる。
- ・ 採択企業が必要とする領域のメンターが十分に用意できていないと感じる。

<イベント開催>

- ・ 県内支援団体等と連携実績が豊富な広島県イノベーション・ハブ施設の運営者を広島地域のエリアコーディネーターに配置しており、本プロジェクトへの関係団体の巻き込みを期待できる。
- ・ 新たな連携先のノウハウと新しい風を入れることでより充実したプログラムが期待できる。

<ネットワークの構築>

- ・ マッチング機会、ネットワーク構築について、やや具体性に欠け、特に海外VCとのつながりについては弱い印象を受ける。

<その他>

- ・ 突発事案などへの臨機応変な対応にやや不安がある。

<総括>

- ・ 県内企業の発掘については、具体的な戦術と稼働イメージが少し弱いですが、広島大学のシーズへのアプローチにかかる連携提案には新たな期待ができる。  
また、コミュニティの継続・拡張については、アルムナイネットワークの維持やステークホルダーの巻き込みに関して、具体名のあるアグレッシブな工夫が見られ、本プロジェクトのめざす姿である「挑戦が当たり前となる文化・土壌」(スタートアップ・エコシステム)の形成に資するものと思われる。